

みつぎ便り

130号
7月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成29年7月1日 https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report/

ドクダミ

道端や空き地などいたる所で見られる野草です。独特の臭いのため「便所草」と言ういただけない名前で呼ばれることもあります。一方、ドクダミは「毒痛み」から変化したとも言われ、また十薬と別称されるように、皮膚のトラブル、利尿、高血圧にも効能があるようです。

乾燥させると独特の臭みがやわらぐため、お茶や健康食品などとして広く利用されています。ベトナムでは揚げて食べ、魚の臭い消しとしても利用されているようです。



ドクダミの花は一見して、四枚の白いものが花びらのように見えますが、これは花ではなく、総房と言われる葉の一部が変化したものです。花は中央に集つて穂のように見える黄色の部分です。ごく稀に、八重咲きのドクダミを見つけることがあります。先祖帰りして一重に戻つてしまうようです。観察してみると面白いかもしれません。

見過ごしていたドクダミの清楚な美しさを再確認されること
（静）

ノゲシ

別名を「ハルノノゲシ」と言い、秋に黄色の花を咲かせる。「アキノノゲシ」や棘だらけの「オキノゲシ」と区別されています。また、葉がケシに似ていることから名付けられたとも言われています。

日本全国の道端や空き地、畑回りなどでほぼ一年中見られますが、最盛期は四月～七月頃です。一つに見える花は、他のキク科の仲間のように多くの花が集つて一個になったもので、草丈は膝から腰程度ぐらいの高



さになります。柔らかい若葉は天ぷらや和え物で食べてもケシのような幻覚作用はなく、似ているのは葉の形だけなのでご安心下さい。

ノゲシは多年草で、ヨーロッパが原産ですが、今では世界各地で見られるようになりました。日本には稲作と同時期に中国経由でもたらされ、史前帰化植物と考えられています。

帰化植物といえ、江戸時代から明治期に日本に入ってきたものが多いなか、ノゲシはスケールが格段に長い大先輩といえる
（利）